

SY1-1

話題提供 dyscalculiaのスクリーニングと早期支援について

大羽 沢子

鳥取大学医学部附属病院 子どもの心の診療拠点病院推進室

文部科学省が推進する「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育」を具現化した研究の一つに、発達性読み書き障害（ディスレクシア）を対象にした早期発見と早期指導（RTI;Response to Intervention）を組み合わせた研究がある（小枝ら 2013）。平成26年度より鳥取市の全小学校では1年生に音読に関するRTIを導入しており、平仮名音読検査を行い、読み困難がある児童には直ちにICTを使った音読指導が行われ、著しい成果を挙げている（赤尾ら 2015）。

一方、算数科学習においては、授業参加が困難である子どもは多いものの、算数障害については早期発見の手立てや早期指導の方法に関する知見が乏しいのが現状であった（熊谷,2013）。そこで本シンポジウムではdyscalculia研究の現状とスクリーニング、早期支援の可能性について話題提供を行う。

1. 算数障害とは

Dyscalculiaは、限局性学習症の1型であり、「数感覚（number sense:数・量の大小についての感覚）、数的事実（arithmetic fact:1桁同士の加減乗除）の記憶、計算の正確さまたは流暢性、数学的推理に著しい困難さを持つものである（DSM-5）。これは、算数科学習における困難と同一ではなく、算数科学習を困難にしている数量の基本的な操作の障害であることを示している。また、DSM-5では、学習の困難が、限局性学習症でない他の問題（視覚、聴覚、他の精神、神経疾患、および心理社会的不利などの環境要因）に起因していないか確認することを明記しており（神庭・2014）Dyscalculiaは発達的な障害であることも示している。

- 1) 状態：序数性、基数性、計算の流暢性の問題、数概念の構成など
- 2) 事例：よく見られる子どものつまずき

2. RTIモデルのスクリーニングと指導

- 1) RTIモデルとは：教師へのフィードバックと支援のあり方
- 2) スクリーニングテストの開発：数的基礎力検査について
 - ・算数科学習を支える「基礎的な力」を測る
 - ・学力の予測性を利用して、早期支援につなぐ

3. 終わりに・・・これからの算数RTIモデルの展望